

第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和7年7月14日（月） 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎 本会議用控室
3 出席	大久保委員長、富田(賢)副委員長、東岡委員、奥田委員、 光部委員、櫻本委員、佐藤委員、富田(竜)委員、櫻井委員、 内山委員
4 欠席	福田委員
5 事務局	■学校教育課 長谷川課長、采女管理指導主事、高堀指導主事、 山下係長 ■教育総務課 丸藤課長（欠席）
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について (2) その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

(長谷川課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会学校教育課長の長谷川です。よろしくお願いします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・推進委員会委員名簿

- ・推進委員会設置要綱
- ・小牧市教員の多忙化解消プラン
- ・小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況
- ・令和6年度市内小中学校在校時間記録
- ・超過勤務45時間超の主な理由
- ・座席表でございます。不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

続きまして会議の公開について、本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。

そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。なお、本日の傍聴はございませんでしたのでよろしくをお願いします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、采女学校教育課管理指導主事よりあいさつを申し上げます。

(1) あいさつ

(采女管理指導主事)

本日は、御多用の中、第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会にお越しいただき誠にありがとうございます。本委員会は、小牧の子どもたちがより豊かな環境のもとで育まれることを目的として、それを支える教職員の多忙化を解消することを目的として設置された委員会であります。

さて、今年は小牧市制70周年ということで、さまざまな取組や事業が行われています。5月に行われた記念式典において、市内の小中学生約70名の子どもたちが、会の受付や司会進行、合唱発表などに携わり、式典を大きく盛り上げてくれました。また、8月には「笑顔と夢でつなぐ あたたかい小牧の明日」をテーマに市内9中学校27名の中学生が参加する「こども議会」を予定しております。明日の小牧をどうしていくかということについて、山下市長をはじめとする理事者側との議場での討論に向け、現在準備を進めております。子どもたちが課題を考え、要求するだけでなく、中学生としてこれからの小牧市にどのように関わっていくのかをテーマにしながら、今一生懸命考えているところです。

また、今年は「昭和100年」の記念すべき年にあたります。第2次世界大戦、戦後の復興、高度経済成長、バブル経済など、激動の時代を経て、平成・令和を駆け抜

け今があります。「教育は国家１００年の計」と申しますが、不易として今も変わらないのは「子どもたちの成長を傍らで見守る教員の姿」だと思います。ただ、その在り方については、時代に即応して変化をしていかなければならないと考えています。

「不易と流行」の中で、次の１００年も小牧の先生方が温かい学校経営の中で、子どもたちを優しい目で見つめることができるその原点を、本日、委員のみなさまからご意見を賜れるとありがたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

（２）委員の委嘱について

（長谷川課長）

続きまして、「委員の委嘱について」であります。

皆様方におかれましては、ご多忙の中にもかかわらず、委員就任についてご快諾賜りまして、誠にありがとうございました。

委嘱状につきましては、本来であればお一人ずつにお渡しするのが本意でございますが、時間の関係上、大変恐縮ではございますが、あらかじめ机上にご用意させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、大変恐縮ではございますが、委員の皆様より自己紹介をお願いしたいと思います。

名古屋経済大学	東岡 宏 様
小牧市区長会連合会長	富田 賢史 様
小牧市PTA連絡協議会	奥田 晋也 様
地域コーディネーター	光部 明美 様
北里小学校長	大久保和則 様
小牧中学校長	櫻本 寛之 様
小牧原小学校長	佐藤 史洋 様
北里中学校教頭	富田 竜堂 様
篠岡中学校教諭	櫻井 亮介 様
桃陵中学校教諭	内山こずえ 様

なお、小牧市PTA連絡協議会 福田伊佐央様につきましては、本日は所用によりご欠席でございますのでご紹介させていただきます。

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

学校教育課	采女管理指導主事
教育総務課	丸藤課長（欠席）

学校教育課 高堀指導主事

学校教育課 山下係長

私、学校教育課長の長谷川です。よろしくお願いします。

(3) 会議の運営等について

(長谷川課長)

続きまして、会議の運営等について、担当よりご説明いたします。

(高堀指導主事)

恐れ入れますが、資料1の「小牧市教員の多忙化解消推進委員会設置要綱」をご覧ください。

まずは、第1条及び第2条をご覧ください。この委員会は、昨年度策定された資料2「小牧市教員の多忙化解消プラン」の進捗管理を行い、その見直しや多忙化を解消するための具体的な取組について検討し、教員の多忙化の解消を図るために設置するものでございます。

第3条、組織等でございますが、この委員会は、学識経験者、学校関係者、地域住民の代表者、児童生徒の保護者、地域コーディネーターの代表者等、11人以内の委員で組織し、任期は今年度中でございます。

第4条、この会には、委員長、副委員長を置き、委員の互選で定めるとしておりますので、後ほど委員の皆様にご審議をお願いします。

第5条、会議は、委員長により招集され、議事につきましては、委員長に取り回しをお願いするものであります。

以下につきましては、ご覧おきください。よろしくお願いします。

(長谷川課長)

会議の運営等について、事務局よりご説明申し上げましたが、ご質問があればお受けいたします。よろしいでしょうか。

2 委員長、副委員長選出について

(長谷川課長)

それでは、次第の2、委員長、副委員長の推薦をお願いしたいと思います。

先ほどご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任につきましては、委員の互選により定めるとされております。

恐れ入りますが、委員の皆様より、立候補あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

(佐藤委員)

昨年度より会に参加されているということで、委員長は大久保委員に、副委員長は富田賢史委員にお願いしたいと思います。

(長谷川課長)

今、佐藤委員より委員長には大久保委員、副委員長には富田委員という発言がありました。委員のみなさま、委員長と副委員長の選任につきましていかがでしょうか。

「異議なし」の声あり

皆様のご異議もないということですので、委員長は大久保委員、副委員長は富田委員にお願いしたいと思います。

それでは、大久保委員におかれましては、大変恐縮でございますが、委員長席へ移動願います。

「席移動」

それでは、改めまして、委員長にご就任いただきました大久保委員にごあいさつをいただきたいと思います。大久保委員長よろしくお願いします。

(委員長)

北里小学校の大久保です。小牧市教員の多忙化解消推進委員会が発足して7年になるかと思います。発足時に携わらせていただき、昨年度からは委員として参加させていただいております。毎年、教員の多忙化を解消するためにさまざまな案をもちながら議論をしてきました。それが形となって今進められていることもたくさんあります。あくまでも、子どもたちの利益になることを念頭におきながら、そのために教員の多忙化を解消していくという視点を持ちながら議論を進めていきたいと考えております。委員のみなさまからご意見をいただきながら、子どもたちにとっても教員にとってもよい方針を示すことができればと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

(長谷川課長)

ありがとうございました。ここからの議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いしたいと思います。委員長よろしくお願いします。

3 議題

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(委員長)

それでは、議題(1)小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について、事務局より説明を求めます。

＜事務局より「小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況」の説明＞

（委員長）

ただ今、事務局からの説明がありました。多忙化解消プランの進捗状況をふまえながら、今後の取組について忌憚のない議論を交わしたいと思います。在校時間記録をみると全体的に改善傾向にあるということですが、実際に学校現場で感じていることや取り組んでいることなど出していただきたいと思います。

（櫻井委員）

今年度は入学式、始業式の日程が遅くなった関係で、異動のあった先生方は環境が変わって大変な中ですが、全体的に新年度準備に余裕をもって取り組むことができたように思います。今年度の数字は出ていないのですが、4月の在校時間の状況は改善されているのではないかと思います。

（委員長）

春休みのことでもいいですし、その後の4月始まってからどうだったかなど、学校現場の状況を教えてくださいませんか。

（内山委員）

4月始まるまでは時間に余裕をもって準備ができたと思いますが、その後の日程は厳しくて、テストまでの間など中学校では時間的に厳しいという声も出ていました。

（冨田竜堂委員）

新年度準備などはゆとりをもって丁寧にでき、また会議も計画的に進めることができました。本校においては、4月始まってからのことも含めて準備を前もって進めることができていました。ただ、例年の在校時間記録をみると、超過勤務の教職員は非常に多く、他の月と比較して4、5月はやはり多忙であると感じます。

（委員長）

地域の方、保護者の方の視点から、今年度の4月当初のお子さんの様子を見て、入学式、始業式が遅くなった影響は何かありましたか。

（奥田委員）

小学校の子どもがおりますが、子どもとしては春休みが長くなったことやその後の日程が詰まったことでの支障やメリットなどは特にありませんでしたので、大きな影響はなかったように思います。

（光部委員）

児童クラブの様子を見ますと、利用者の半数が4月1日から児童クラブに早速入ってきた子どもと学校が始まってから入ってきた子どもで、1か月近く差があったため、児童クラブの生活に慣れるまでに時間がかかるなど、4月は子どもの様子が二極化し

ておりました。

(委員長)

入学式、始業式の日程について、この委員会で何かできることはありませんが、来年以降も様子をみながら、今年の実験を活かしていければと思います。

在校時間記録が改善されていると事務局から報告がありましたが、その点についてご意見はありますか。例えば、本校ではいろいろな働き方をする先生が増え、それがいい方向に出ているのかもしれないと思っています。育短・部分休の先生方の働き方をみて、計画的に仕事を進める、仕事に切りをつける感覚が生まれたこと、また、全体的に若手教員が多くなっており、よい意味で気兼ねなく帰宅することができる雰囲気ができていると感じています。委員のみなさまの学校で改善されていることやその要因などについてはいかがでしょうか。

(櫻井委員)

最終下校時刻について、本校では一番遅い時期でも午後5時30分から午後5時にしました。多くの中学校で最終下校時刻を早めることは行われていると思いますので、在校時間記録に反映されているのではないかと思います。

(委員長)

中学校の部活動に関わって何かありますか。

(櫻本委員)

本校は年間通じて午後4時30分を最終下校としています。ただし、日没時刻などを考慮した上で、大会前などは延長申請をして部活動に取り組む場合もあります。ほかには部活動に限ってではないですが、教務主任が日課を工夫し、学年部会を月・木曜日で組む場合は部活を行わないなど、時間を確保するための工夫をしました。また、現職教育や職員会議などがある場合は、清掃時間を短くして下校を早めるなど、時間生み出す工夫をしています。

(委員長)

日課の工夫という話が出ましたがいかがでしょうか。

(富田竜堂委員)

本校では数年前から、火・木曜日は部活動をなしとし、会議や教材研究の時間に充てています。ただ、中学校大会のある時期は部活動を行うことを認めています。さらに今年度から、火・木曜は清掃をなしとしました。その分、ふだんから清掃をしっかりやるということを意識させています。生まれた時間を他の業務に取り組む時間に回すことができるため、特に少経験者が勤務時間後に気兼ねなく帰宅できる雰囲気ができていると感じます。また、本校で本年度力を入れていることが二つあります。一つ

は、C a n v aを有効活用し、私が作成したのは夏休みの盆踊りのボランティア募集のチラシですが、味気ないプリントで募集をするよりもI C Tを活用して生徒の目を引くチラシを短時間で作成できるようになりました。もう一つは、定時退校日を確実に設定するのはもちろんですが、教職員みんなで意識して計画的に業務に取り組み、みんなで帰宅しようということもやっています。やはり取り組まなければならない仕事はありますので、定期的に設定しようと思っても難しいのが本音です。

(佐藤委員)

教育相談週間について、午前中の日課を工夫し、給食のあとに教育相談の時間を設定しています。昼にもってくることで朝が慌ただしくならず、子どもたちにとっても教職員にとっても、いつも同じリズムで一日が始まるのはよいことだと思います。

(委員長)

大学では何か取り組みをされていることはありますか。

(東岡委員)

多忙な中ですが、大学でも多忙化解消のための工夫がされています。授業時間が90分で空いた時間に会議等を入れるため、事前のメールや資料配布、会議時間をきちんと決めて終了時刻を守るなど、工夫をして行っているところです。

(富田賢史委員)

在校時間が減っていることについて、先生方の努力は素晴らしいと感じます。仕事量はかわらないので、いろいろな話が出ているように先生方の工夫が大きいと思います。そして、子どもたちの様子は、例えば行事などで、むしろ生き生きと取り組んでいる点が素晴らしいです。また、先生方は忙しいからと手を抜くのではなく「授業で勝負」という気持ちもしっかりもってみえます。市内の小中学生と接する機会も多いですが、どこの地域も健全育成に一生懸命取り組んでいます。また、これまで出た意見を聞いていると、先生方が休みをとりやすい雰囲気があることも非常に大事なことで、先生方が余暇を楽しみリフレッシュすることも大切です。部活動がだんだん縮小していくことも致し方ないことですし、スポーツ・文化的活動についても生徒自身が多様な価値観を持ち始めています。そういった意味でも、今年度から始まった夢チャレンジ科は子どもたちの探究心を育み、子どもたちが打ち込める活動になっていくとよいと思います。一つ気になることは、新しく始まった夢チャレンジ科は先生方のご負担になっていないでしょうか。

(委員長)

学校によって取り組み始める時期が異なると思います。本校はすでに取り組み始めていますが、初年度ですので、子どもたちといっしょに試行錯誤しながら、楽しみな

がら取り組もうという意識でやっています。みなさんの学校ではいかがでしょうか。

(富田竜童委員)

20時間のうちのすでに半分以上は進めています。子どもたちも教職員も負担感なく取り組めるといいよねという気持ちで取り組んでいます。文化祭・体育祭が10月に予定されていますが、探究したことを文化祭で発表できるといいのではということで、昨年度終わりの総合的な学習の時間の部会で検討を重ねておりました。子どもたちはさまざまなテーマでそれぞれ探究をしています。2時間続けて時間をとって、集中的に探究の時間を設けていますが、例えば、卓球のカットサーブについて、バスケットボールのシュートについて、紙パッチンの音量について、空の色や雲についてなど、さまざまな方法で記録したり、タブレットで動画を撮影したりしながら、各々が探究をしています。

(富田賢史委員)

子どもたちは子どもたちなりに課題を見つけていくので、思いっきり取り組ませることがよいと思います。先生たちが出すすぎるとかえって幅が狭まってレールに乗ることになるので、先生方が構えすぎることなく、思い切って子どもに任せる方がいいと思います。

(采女管理指導主事)

学校訪問でお話しさせていただいておりますが、教育委員会として、総合的な学習の時間のみを拡充させるのではなく、すべての教科において探究的な学習を行ってほしいと考えています。探究は子どもを主語にして、先生方が教えた、教えなければならないではなくて、「子どもたち自身が学びたい」「子どもたち自身が問いをもつ」ことをふだんの授業で大切にしてもらいたいというのが大きな指針であります。先ほども出ておりましたC a n v a、C h a t G P Tを子どもたちはいとも簡単に使いこなします。そういった時代の中で、今、大切なことは子どもたちが疑問に思ったことを自ら探究することであり、自らチャレンジすることであると考えます。今年から始まった夢チャレンジ科を決してイベントとして終わらせないために、先生方をお願いしたいことはふだんの教科の授業においても、子どもを主語にし、発問の工夫など意識をしてほしいと思っています。また、探究パートナーということで、地域の施設、企業、専門家、高校、大学などとの連携を進めています。学校の中で先生と子どもたちだけで完結するのではなく、さまざまな立場の人たちと関わりながら子どもを主語にした活動を進めていきたいと考えています。

(委員長)

ありがとうございました。時間も来ておりますが、事務局から、多忙化解消の取組

で他市町の取組など先行事例はありますか。

(高堀指導主事)

委員のみなさまの意見をうかがう中で、日課を工夫することにより教員が授業の準備など本来の業務に集中して取り組めること、また、ゆとりをもって丁寧に業務にあたることができる環境を整えることが大切だと感じました。他市町の事例としましては、午前4時間、午後2時間という時間設定が通常ですが、小学校において午前に45分で5時間、午後に1時間として、午後の時間を生み出すことを行っているようです。この場合、朝は健康観察の時間のみで1時間目を早くスタートしているようです。また、委員からの意見にもありましたが、掃除を行わない日を設定し会議や教材研究の時間を確保するといった例も増えてきているようです。

(委員長)

事務局より紹介がありました。日課をかえるのであれば、保護者、地域の合意の上で進めていくことが必要であると思います。各校でも日課の工夫について考えていただければと思います。本日出された意見については事務局で検討していただき、次の委員会において提示していただければと思います。

(2) その他

(委員長)

続きまして、(2) その他につきまして、事務局よりお願いしたいと思います。

(事務局)

特にありません。

(委員長)

それでは、私に与えられました議事の司会につきましてはこれで終了させていただきますので、事務局にお返ししたいと思います。

(長谷川課長)

委員の皆様、長時間にわたるご審議どうもありがとうございました。次回、第2回推進委員会については12月に小牧市役所で開催を予定しております。改めて皆様のご都合を確認させていただき、開催日が決定したところでご連絡差し上げます。お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

これをもちまして第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。